

Title	増訂新版 歐洲近世外交史 上巻(林毅陸著, 一誠社發行)
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1933
Jtitle	史学 Vol.12, No.4 (1933. 12) ,p.153(733)- 153(733)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19331200-0153

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

書評

増訂 近世外交史 上巻 (林 毅陸著) 新版 洲 (一誠社發行)

内外共に、外交史の研究がなほ頗る幼稚であつて、將來歴史の一分科として之を獨立させ得るかどうかも疑はれてゐた頃に於て、既にこの新分野に注目して研究を進められた我が林先生の外交史は、その上巻が夙に一九〇八(明治四十一年)に刊行せられ、斯學の尖端を驅進せるものであつた。爾來、四半世紀の間に於ける歐洲外交史の研究は、著しい進歩を遂げたのである。それにも拘らず、今日に於ても邦文でその全般に互つて記された歐洲外交史の良著は、僅かに二三を數ふるに過ぎない。且つ又本書の如く、流麗なる行文の間に、個人外交の面影を遺憾なく活躍せしめてゐるものは一つも存しないのである。長く生命を維持してゐる本書は正しく『邦文外交史のクラシック』であると言つても不都合はなかるべく、本書によつて教を受けたる我等には思出多き好記念碑でもある。

この上巻に於ては、第十八世紀の歐洲に於ける英露普の新膨脹、ポーランドの分割とトルコの衰微等に筆を始め、フランス革命及びナポレオンの時代に於ける對佛列國同盟關係及びウィーンナ公會、更に神聖同盟その他の反動外交、並に南米植民地、ギリシヤ、

ベルギーの獨立及びエジプトの半獨立に關する複雑なる外交關係の表裏が取扱はれ、列強折衝の跡を明かにし、その巧拙が批判せられ、イギリス外交の妙諦が謳歌せられてゐる。

初版以來新研究を加へて絶えず増訂せられ來つた最後の版と之を比較して見ると、新版に於ては固有名詞の用字法が現代的に稍改められた外、内容に於ては著しい變更が加へられたとは思はれないのであるが、その外形は全く一變し、紙質が改善せられた上に、活字をポイントに改め組方を變更し、それだけ頁數を減じて、前著の五二〇頁から三七二頁に縮まり一段の進歩を示してゐる。私一個の希望としては、下巻の終に索引を加ふるか、細目次に頁數を附加して檢索の便を與へられたらばと思ふ。

世界の變局は今や著しく外交的色彩を帯び來つてゐる。今日位ヨーロッパ諸國の内政狀態が對外關係に左右せられ引摺られてゐることは稀である。又我國に於ても頻々として聞かれる『非常時』といふ言葉は、その滿洲國承認の——或は非承認の外交上の跡始末を意味するものに外ならない。我國の運命も亦たこの外交にかゝつてゐるのである。歴史の重點は外交史に移りつゝあるかの如き觀がある。外交史の知識と——又その常識を最も必要とするこの際に於て、我等はこの名著が重版せられたことを喜ぶと共に、更に増補が加へられんとする下巻の刊行の早からんことを祈るものである。定價三圓五十錢。(間崎万里)

近代國際政治史

(占部百太郎著)
高原書店發行